

「大好き！文章題」

1 提案の主張

全コース共通してのねらいとしては「算数，文章題の楽しさを知る」ということである。その目標を達成するために，それぞれ次のような指導を考えている。

(1) めざせ達人コース 松浦雅彦先生

算数が得意な子どもたちが多いコースだが，問題を解くことができても，算数を楽しいと感じている子どもはほとんどいない。関係図をかくことは全員ができるので，その良さを自分の力で気づき見つけ出す活動から算数的活動の楽しさを味あわせたい。

(2) 関係図習熟コース

立式はできるが，図に表すことが苦手な子どもが多い。そのことから，演算の方法は大体わかっているが，数量関係の本当の意味がわかっていない子どもが多いクラスだと思われる。それを克服するために，考える時間を十分に確保し，問題が解けるだけでなく，式の意味や良さを知り，文章題の面白さを知ってほしい。また，単元末には他のクラスと交流することによって理解を深めていきたい。

(3) 読み取り名人コース

算数，特に文章題に対して，苦手意識をもっている。問題を解く過程もほとんど理解できておらず，計算なども言われるがままに理由もわからず計算している子どもがほとんどである。その苦手意識を取り除くためにスモールステップで「僕もできる」「私もできる」という気持ちを味あわせてあげたい。また「こだわりシート」を毎時間書くことによって，子どもの感想や意見を聞き，授業に反映できるように心がけている。

2 提案に対しての意見

Q

関係図から問題を解いていたが，スモールステップで，わかる喜びを味あわせたいのなら理解が十分でない子どもについては絵図まで戻って考える必要があったのではないか。また，文章題を解く楽しさに気づくためにも自力解決の時間が必要だったと思う。また，楽しさを味あわせるために工夫していることがあれば教えてほしい。

A

子どもの興味をひきつけるような問題を探してきて

提示したりしている。自力解決については，コースによって自力解決の方法を変えている。A，Bコースでは普通どおり時間を確保しているが，Cコースに関しては自力解決のための方法・手段を獲得し身につける時間として確保している。

Q

前時までと問題が少し違っていたために，関係図で表すことが難しかったみたいである。関係図が十分にできていない状態では良さを見つけないところまで思考はいつてなかったのではないか。また，関係図に関してはどの程度まで全員が理解することができたらよいのか。

A

割り算は初めて出てきたので，関係図に表すことが難しかったようである。事前に同じような問題で関係図の習熟を図っていく必要があったと思う。また教科書と同程度($\times 5$)や($+ 200$)などの記号が入った関係図を全員が作ることができる程度の定着をねらっている。

3 ご指導

子どもを見てると，生き生きと活動している。それは，教師がこういう子どもに育ててほしいという明確な目標を持ち，努力しているからこそだと思う。また，教室環境についても今まで学習してきたことがしっかりと残っており，子どもの思考の手助けとなっている。

授業を見て感じたことは「本質は何か」つまり「数学的な考えかた」とは何か，またそれを獲得するための算数的活動とはなにかということである。今日の授業ではどのような関係図になるか自分たちの考えを持たせる“予想する活動”，実際に関係図に表す“記号化”の活動，最後に考え方の類似性から等号の考え方を見つけ思考を一般化していく“抽象化”の活動が中心におかれていた。

このように価値ある活動を教師が見つけ，意図的な算数的活動を取り入れることで，子どもの思考の中でイメージ操作ができるようになってくる。特に子どもは具体，反具体，抽象という思考を往復運動をしながら理解していくので，問題，関係図，式の3つをしっかりと読みあうことが重要である。